



優秀賞 (総合部門)

タイトル

鶴見の平屋敷

タイプ

持家一戸建

講評

介護の視点からのバリアフリーという問題に対し、さり気ないプランニングでしっかり応えている。プラン以上に優れている点は、リフォームによってしか実現できないような「癒しの佇まい」を施主と共に造り出した事。

リフォーム前後の写真



リフォーム前

父と娘。父の足腰、脳の老化が心配。雑然としていた台所



父がくつろいでいた場所は畳を残して上段の和室に。写真向こう側に父の寝室(ベッド)があります。和室の高さはベンチ代わりに座れる高さで下は収納。引き込み模で仕切ることのでゲストルーム兼用。



旧屋は多くの部屋に分かれていましたが、その柱梁を残して壁を撤去しオープンなワンスペースに。家の中心である床の間、収納は残置。



こだわりのキッチン。オープンにして、父の様子が見えるようにしています。庭の借景を眺めながら作業ができます。



傷を補修した柱。全ての柱は花で演出可。花器は古い金物。



床の間を板で延長。少し浮かせて軽快に見せている。



玄関の花飾り。大家石は解体した塀の利用。壁の黒い下見板は構造補強材。



間仕切りは取り払っても天井形をそのまま残すことで、家の思い出として継承。



テラス屋根は竹ひごの編み込みシェード。隣家の目隠し。円形木テラス。



梁から吊り下げた花器。ステンレスワイヤと籐の編み込み。



特注した土のテーブル。本格的な竹小舞に2種類の土を練り固めている。



建具には安全な中空ポリカーボネイト。光を背景とした花飾り。

リフォームの動機 / 設計・施工の工夫点 / 施主の感想 など

高齢の父親が一人住まいでしたが、介護が必要となり、娘が同居して面倒を見ることになったのがリフォームのきっかけ。築45年の夏暑く冬寒い家で、構造、断熱の補強やバリアフリー対応の他に、介護という辛い生活を少しでも楽しく過ごせるような潤いのある住まいにしてほしいということが要望でした。老人室と水周り空間を充実させ、細かく仕切られていた部屋の間仕切りを取り払い、見通しの良いワンスペース空間を確保。建物構造は外壁の下見板張りでも剛性補強しています。天井は既存の形態をそのまま残すことで部屋の思い出を継承し、その中でワンスペースでありながら変化のある空間となっています。必要分を残した柱が室内に乱立している様は林のようで、庭のイメージが室内に連続した雰囲気となっています。造作材はムク木材、壁天井は和紙貼り、自然素材ワックスなど

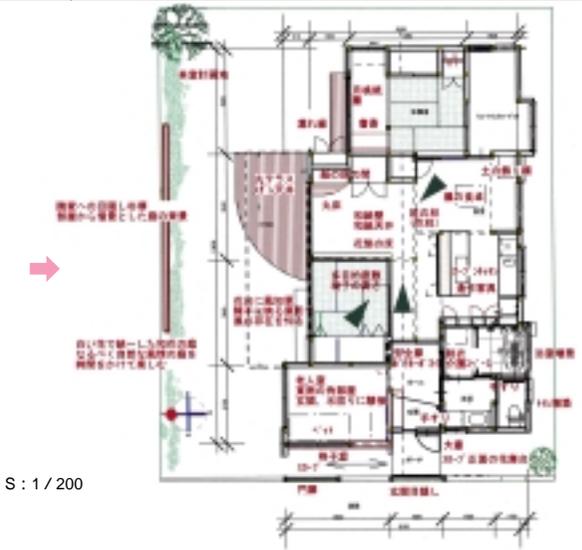
特に配慮した住宅性能など：耐震補強 省エネルギー バリアフリー 住む人の健康 その他 (自然素材)

データ	所在地		構造 / 築後年数		木造 / 45年	
所在地	神奈川県横浜市		構造 / 築後年数	木	造 /	45年
該当工事面積	92.7	m ²	該当部分工事費	1,050	万円	
居住者構成	2	人 (大人 15歳以上)	2	人 (子供)	人 (ペット)	
設計者	(株)アークデザイン工房		担当者	細矢 進		
施工者	(有)宮内工務店		担当者	宮内 祐二		

リフォーム前



リフォーム後



S : 1 / 200